

高大学連携学習によるコミュニケーションスキル教育の開発研究

宮城 信・泉 一彦

〔報 告〕

高大学連携学習によるコミュニケーションスキル教育の開発研究

宮城 信・泉 一彦*

A Development Study of Communication Skills Education by Cooperation Learning between High School and University

Shin MIYAGI, Kazuhiko IZUMI

摘要

近年、小学校から大学初年次まで、すべての校種でコミュニケーション教育が取り上げられるようになった。この能力の育成に聞き手の気持ちや立場への配慮が不可欠であるとするならば、形式的な演習だけではなく、より具体的で系統性を有した総合的なコミュニケーション力の育成を目指す必要がある。著者は、宮城 (2013)、宮城・文 (2014) で、大学生・高専生を対象とした日常の場でのコミュニケーション力育成の教材と指導法を提案した。講義を受講した学習者には、部分的にはあるが、日常の場でのコミュニケーションのあり方と必要性についての意識の変化が見られ、一定の成果を得ることができた。加えて、社会で求められているコミュニケーションを効果的に実施するための基礎的な力の育成を目指したコミュニケーションスキル教育の開発研究と位置づけることができることも示した。

宮城・文 (2014) の実践は大学生等の高等教育機関向けであった。これを受けて、本稿では、高校生向けにコミュニケーションスキル学習の教材を開発し、高校教諭の協力を得て実践を行うこととした。本稿は、当該実践における、学習の目的、教材の意図、教材の変更点、高校現場での実践、学習者の反応等を記録し、検討した実践報告である。

以上の一連の実践研究は、日常のコミュニケーション力を基盤とした総合的かつ実践的な「生きる力」に繋がるコミュニケーション力育成を目指した研究の基盤をなすものである。

キーワード : コミュニケーションスキル・トレーニング, ロールプレイ, 高大学連携学習, 教育実践

Keywords : communication skill training, role play, cooperation learning between high school and university, educational practice

I. 目 的

1.1 日常のコミュニケーション力の育成

会話を円滑に成立させるために必要となるコミュニケーション力は、およそ3層のスキル(技能)に分けられ、それぞれが積み重なって成立していると考えられる(宮城 2013)。まず最も下層の基礎的なものに、「基礎的な会話能力」がある。これは、会話での挨拶等の形式的な受け答えや、敬語や伝えたいことを表現するための基本的な語彙力と形式的な運用を指す。次層に「日常のコミュニケーション力」がある。これは、前層の「基礎的な会話能力」を後層の「公的なコミュニケーション能力」に活用するための力と捉えている。最後に最も上層に位置づけられる「公的なコミュニケーション力」である。これは、公的な場でのプレゼンテーションやディスカッション、就職試験の面接等での受け答えを場面に応じて適切かつ円滑に行うことができる総合的な能力を指す。これが、現在社会から求められている実践的な「コミュニケーション力」である。しかしながら、これらの能力が重層的に重なり合っているのであれば、もっとも上層

のこの能力だけを直接的に育成することは難しい。そこで本研究では、まず中層の「日常のコミュニケーション力」から育成を目指して教材・指導法の研究開発を進めていくことにする¹。

1.2 大学生・高校生のコミュニケーション力の実情

近年、校種の違いを問わず教育の現場では、プレゼンテーションやグループディスカッション演習等様々なコミュニケーションスキル育成の取り組みが実施されている。受講する学生たちと話してみると、彼らが不安を抱えているのは確からしく、就職試験等の面接で適切な敬語が使えるのかとか、上手く志望動機を伝えられるのかといった本研究でいうところの公的な場でのコミュニケーションスキルについての不安をよく耳にする。そして、就職試験が近づくと、著者のところにもいく人かの学生が面接指導の依頼にやって来る。公的なコミュニケーションスキルは、基本は形式的な表現の組み合わせであるので、短時間の指導でかなりの程度改善が見られる。一方で、著者の見る限り、大学生であっても「状況

* 神奈川県立鶴見総合高等学校 国語科 総括教諭

を説明する」や「利点を示して誘う」といった日常の場でのコミュニケーションは難易度が高く、状況に応じた適切な運用がなされているとは言い難く大きな問題である。この問題への解決策の一つが本研究で実施している実践である。

転じて高校生のコミュニケーション能力に着目してみる。何人かの高校教諭に尋ねたところ、大学生と同等程度かさらに深刻な問題を抱え込んでいるようである。彼らにとって考えを上手く伝えることは意外にハードルが高い行為だと言うのである。結果的に、言いたいことだけを言い、伝わらなければ半笑いし、伝え方を考える前にすぐに諦めてしまう。学校教育を含め、これまで伝え方を模索するというコミュニケーションスキルに関する実践的な学習をないがしろにしてきたことによる弊害であろうⁱⁱ。すでに1.1節で述べたように、大学教育で求められている公的なコミュニケーションスキルの基礎としての日常のコミュニケーションスキル教育は重要である。可能であれば、コミュニケーションスキル教育は、初等教育段階から継続的・系統的に実施されていくのが望ましい。能力の十分な熟成には多大なコストを必要とするからである。近年各校種での様々な取り組みがなされ状況の改善が計られてきている。一方で、すべての学習者にその機会が与えられているわけではない。例えば、大学へ進学せず、高校卒業後そのまま社会に出て行く学習者たちにとっては、現状のように高校時代までに何らかの教育・経験がなされなければ、その機会は永遠に失われてしまうことになる。そして、問題はさらに深刻化する可能性があるⁱⁱⁱ。

1.3 高大連携の教育と教材開発の必要性

近年、高大連携の必要性が叫ばれるようになった。その意味での大学教育と高校教育の連携・接続（一部では交流）が承認された。言い換えれば、相互の積極的な交流が求められる課題として示されたことになる^{iv}。指導の形態としては、高校での出前授業やオープンキャンパス、大学で受講するプログラムを高校の単位として認定する制度等があり、様々な取り組みが全国各地の高校－大学間で展開されている。答申の趣旨は、高校と大学の協働・連携のもとに行なわれる教育活動であり、必ずしも単位認定に関わるものだけを指すわけではない。高校教諭による大学生への補習授業の実施等と共に、大学の教員が積極的に高校での教育内容に関わることによって、専門教育を実施するための準備としての知識の補完や定着の拡充を目指すところにこの活動の本質があると考えられる。

本研究の眼目も、この高大連携による基礎学力の涵養、または高校卒業後に社会に出て行く学習者たちに必要な力であるコミュニケーション力をどのように養っていくのかという点にある。高専での実践である宮城（2013）、大学での実践である宮城・文（2014）によって、本研究

の教材および指導法の有効性が示された。これを受けて本稿では、当該教材・指導法を高校の現場において実践し、その成果の報告を行う。

II. 教材の概要

2.1 各回の課題

本研究の課題（大学生向け）は、全15回で構成され、半期2単位の演習形式の授業として、以下のように配置される^v。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自己紹介をする
- 第3回 説明をする
- 第4回 報告をする
- 第5回 質問をする
- 第6回 話し合う
- 第7回 謝る・感謝する
- 第8回 励ます
- 第9回 薦める・誘う
- 第10回 頼みごとをする（今回報告する対象回）
- 第11回 頼みごとを断る
- 第12回 説得する
- 第13回 間をつなぐ（雑談をする）
- 第14回 面接を受ける
- 第15回 まとめ

本研究では、下線部回「第10回 頼みごとをする」をケーススタディとして取り上げて考察していく。

2.2 問題のある会話例から考える

本研究で提案する教材は、毎時間、「説明する」「頼みごとをする」等の具体的な状況を設定し、効果的な解決に繋がるコミュニケーションのあり方を検討するというものである。まず、以下のような問題のある会話例を提示して注意点や改善点を検討する。それを参考にしながら問題解決型ロールプレイ演習^{vi}を実施する。以下のスクリプトが問題のある会話例の一例である。

第 10 回 レッスン 1 問題のある会話例

吉沢さん：田中先生、こんにちは。吉沢です。
 田中先生：ああ、こんにちは。どうしました。
 吉沢さん：レポートのことです。
 田中先生：……………ああ、「日本語学概論」のレポートですか。
 吉沢さん：はい、実はレポートを書こうと思ったんですけど……………
 田中先生：ちょっと待ってください、これから会議があるので明日の午後にまた来てくれますか。
 吉沢さん：えっ、明日はバイトがあるので無理です。ちょっとだけでいいのでお願いします。
 田中先生：分かりました。では 5 分だけ。どんなことですか。
 吉沢さん：レポートの資料としてどのような本がおすすめですか。
 田中先生：前回の授業の始めに 3 冊紹介しましたよ。
 吉沢さん：すみません、遅刻したので聞いていないんです。今週中にレポートを仕上げたいので、今教えてもらえませんか。

このような例を示して、何が問題であるか話し合い、どのように言い方にすればよかったのか意見を出し合う。前半のまとめとして大まかな共通認識を形成し、その後ロールプレイ演習を行い、相互評価、総括を行うという流れである。公的な場でのコミュニケーションスキルとは異なり、日常のコミュニケーションスキルにおいては、手本となる形式的な言い回しを示すことが困難である。当然ながら、完全な正解となる発話を一つに定めることはできない。この技術を磨くためには、不適切な応答をできるだけ回避し、聞き手に対する配慮を見せることの積み上げによって、自分なりの会話のパターンを作り上げていくという方法しかない。

2.3 大学生用教材

大学生向けの教材¹⁴⁾は、レッスン課題（3 題）とロールプレイ課題で構成されている。レッスン課題は問題のある会話例から、「何が問題なのか（問題発話と理由の指摘）」や「自分ならどう気持ちを伝えるのか（適切な表現の考察）」を考え、自分なりに適切な方略を見つけていくという発見課題である。それを踏まえての実践演習であるロールプレイ課題は、事前に決められた状況・役割に従って、学習者が自ら考え、その場に適した発話を選択し、問題解決を図るといった演習課題である。また、教材には各課題の合間にコラム（「ちょっと一言」）や注意点（「point!」）等を配して整理の助けとなるような工夫を施してある。例えば、レッスン課題は以下のようなものである（「第 10 回 頼みごとをする」より抜粋、全体の内容は末尾の資料 1 を参照されたい）。

(1) 大学生用教材：第 10 回 レッスン 3 「頼みごとが受け入れられやすくなる表現」

会話例 4 咲さんに引っ越しの手伝いを頼まれた直樹くんは、雄二くんにも一緒に手伝ってくれるように、頼みに行きます。直樹くんの言い方の違いで、仕事を押しつけられた雄二くんの反応は大きく違ってきます。

直樹くん：あっ、雄二。ちょうどよかった。【 1 】
 (A) 明日の夕方、咲んちの引っ越しを手伝いに行くことになったよ。
 (B) 明日のことで頼みがあるんだけど。

雄二くん：えっ、明日ボクんち来るって言ってなかったけ。
 直樹くん：【 2 】
 (A) 2人で一緒に引っ越し手伝ったら早いだろう。
 (B) 実はさ、咲に引っ越しの手伝い頼まれちゃってさ。悪いけど一緒に行ってくれないかな。

雄二くん：まあ、咲ちゃんに頼まれたら断れないな。仕方ないか。
 直樹くん：その場のノリで、そうなっちゃったんだ。ごめんな。
 雄二くん：まあ、咲ちゃんに頼まれたら断りにくいけど……………
 直樹くん：【 3 】
 (A) サンキュー。じゃ、明日 5 時に咲んちに集合で。
 (B) ほんと助かったよ。今度なんかあったら言ってよ、オレ絶対手伝うよ。明日 5 時集合でいいかな。

Step 1 **会話例 4**では、下線部【1】～【3】の箇所直樹くんが (A) ではなく、(B) のように伝えることで、仕事を押しつけられた雄二くんの反応は大きく違ってきます。それぞれどのような配慮が見られるのでしょうか。考えをまとめて書きましょう。

上記の課題は 2015 年度前期に実施された改訂版である¹⁵⁾。(旧版)を用いた大学での実践については、宮城・文 (2014) を参照されたい。

2.4 高校生用教材

高校生用の教材は、はじめに（導入）、レッスン課題（問題のある会話例 2 題）とロールプレイ課題で構成されている。根幹となる問題のある会話例は同内容のものを提示している（趣旨を損なわない程度に大学生用の教材を書き換えてある¹⁶⁾）。ただし、いくつかの対応を対

比して批判的に考える回答を求められる大学生用とは異なり、高校生用では自分の考えと他人の考えの違いを話し合い、最終的に結論を言葉にする（文章化する、発話すること）に主眼が置かれた構成となっている。また大学生用は、コラム類が充実しており、自習・復習に活用できる構成になっているが、高校生用は、不足分の情報は学習者たちの状況を見て授業実践者が適宜補うことを意図した作りになっていて、確認用に簡単な「point!」が示される程度である。また、1時間（50分）の授業で一通りの課題を終わらせることができるようになっていて、可能な限り情報量を減らして簡素化している。以下、本実践で使用した教材の大学生用に対応する部分を示した（「伝わるお願いを考える」より抜粋、全体の内容は末尾の資料2を参照されたい）。

(2) 高校生用教材：「伝わるお願いを考える」

ページ3「自分が手伝うことを勝手に決められてしまったときの対応」（課題2）

○次の会話例を聞いて、考えてみましょう。

【状況】アキラくんは、友だちのユミさんに手伝いをたのめられました。1人だと大変なので、勝手にケイクンも手伝いに行くこと約束しましたが、アキラくんはそれをケイクンに言っています。

【会話例2】

アキラくん：あっ、ケイ。ちょうどよかった。明日、ユミの荷物運びを手伝うことになってさ。

ケイクン：えっ、明日一緒に僕の家でゲームするって約束したじゃん。

アキラくん：だからさー、2人でやればすぐに終わるだろ。手伝いに行こう。

ケイクン：えー聞いてないよ。なんで僕もやることになってるの。

アキラくん：その場のノリで、そうなっちゃったんだ。ユミに頼まれたら、ケイも断れないだろ。

ケイクン：まあ、ユミちゃんに頼まれたら断りにくいけど……。

アキラくん：じゃ、いいよな。明日朝9時にユミン家に集合な。

ケイクン：【 4 】

問題2 アキラくんは、ケイクンが納得できないことを2つもしています。それはどんなことですか。（納得＝その通りだと思うこと）

問題3 もしあなたがケイクンだったら、【4】の部分でどのような返事をしますか。

Ⅲ. 実践

3.1 実践概要

本実践の授業協力者（授業に参加した学習者）は、単位制高校である神奈川県立鶴見総合高校[※]の1～2年生である。外国に繋がる子どもが数を占め、普通科の日本人の学習者たちよりも日常の場でのコミュニケーションに困難を抱えていると思われる（その点に配慮して、教材では難解な漢字に振り仮名を付すようにした）。本研究の教材・実践の最大射程は中学生以上を想定しているため、授業対象者として適格であるが、例えば高校生対象としたロールプレイ演習の実践（森・豊田2010）で示されるようなスムーズな回答は難しいと考えられる。ただし、本研究の趣旨は本教材が幅広い校種・学齢における汎用性を有していることを確認することにあるので、学習の達成度ではなく、学習者たちが積極的に授業に参加しているかどうか、授業そのものがつまずきなく進行しているかどうかに着目する必要がある。

本実践は、以下のような概要で実施された。

日時・場所：2015年2月「日本語」の授業の1時間（投げ込み教材として行われた）

授業協力者：7人（「外国に繋がる子ども[※]」を多数含む）

授業実践者：高校教諭2名（主授業実践者・授業補助者）[※]、研究者1名（観察・記録補助）

授業時間：80分

実践で使用された教材（資料2）は、筆者がこれまでの高専や大学の実践を通じて、改訂してきたものを、研究協力校の学習者の状況を勘案し、担当教諭らと十分な協議を経て改訂したものである（高専用・大学用の両教材との差異に関してはⅡ節を参照）。

3.2 授業の流れ

本教材では「はじめに」ですぐに「お願いするとき、気をつけること」を問う問題となっているが、学習者たちにとってイメージがしやすいように、まずは皆で話し合うことの意義、具体的にはこれまでの経験を例に考えてお願いするときにはどのようなことが重要であるのかを話し合った。意見が出しづらい場合には、授業実践者が例を追加したり、問い返しをしたりという支援を行ったので、学習者たちは具体的な問題点を比較的スムーズに挙げることができた[※]。学習者たちから出た回答は板書して、皆で共有することにした。その結果、「問題のある会話例について意見を出し合う」（課題1）と「問題のある会話例に対して、自分なりに適切だと思う表現を考える」（課題2）は、比較的スムーズに行うことができた。最後にロールプレイ課題を（課題3、2題）を実演し、皆で評価・検討した。なお、本時の課題を考えるときにすぐに参照できるように、板書は授業終了までそのままに

した。具体的な板書内容については次Ⅲ節に示す。

Ⅳ. 結果と考察

4.1 授業と学生の反応

(1) 導入

授業の導入として、日常生活の中で「お願いをする」という経験について、いつ、どのような内容で、どのようなことを頼んだら、どうなったかという具体的な状況を思い出しながら、各自で振り返りを行うことから始めた。それを受けて、「こうすれば、お願いを聞いてくれるのではないか」という点について話し合い、学習者たちから次のような意見が挙げられた。

(以下、板書内容)

- ・やさしい言葉づかい
- ・相手の気持ちを考えながら頼む。
- ・ひたすらお願いする。 → でもそれでは聞いてくれないかも知れない。
- ・笑顔や態度が大事である。

何人かの学習者が意見を述べた。その際、発話者に対して批判的な言動や態度を取る者はいなかったことから、授業を実施したクラスは、誰でも自由に発言できる雰囲気があると考えられる。ただし、意見はどれも散発的で、先の意見を受けて皆で考えを深めようという意識・姿勢は薄いように感じられた。そこで授業実践者が、意見を出し合うことの意義、一人ひとりが知っている知識は少ないが、皆で考えを出し合えば、考えが深まるのではないかと提案し、諺「三人寄れば文殊の知恵」を引用して、積極的に話し合うことを促した。その結果、以下の発話においては、発話者以外の他の学習者からすぐに様々な付け加えが出された。ここでは、まずレッスンの課題に引きつけるために、先生にお願いするときに注意することについての意見を求めた。

(以下、板書内容)

- ・敬語で話す。
- ・態度 → 先生への態度と友だちへの態度は違う。
…… 真剣 ← 自分より偉いから
- ・お願いする理由が大切である。

特に回答を求めなかったが、お願いを聞いてくれた後の感謝の方法についての意見も挙げられた。

(以下、板書内容)

- ・感謝の言葉
- ・奢る、プレゼントする。
- ・一緒に遊びに行く。
- ・感謝の手紙・メール
- ・電車で席を譲る。
- ・相手からのお願いもちゃんとする。

即物的な感謝の方法が多い中、最後の「相手からのお願いも～」というように、自分も相手のために汗を掻くという意見も見られ、他の学習者たちからの共感を得られていた。次に、本実践の根幹をなす課題について述べる。

(2) 先生のところに再テストのお願いに行く (課題1)

続けて、この内容に基づいて、課題1の問題のある会話例についての話し合いを行った。「先生のところに再テストのお願いに行く」という課題である。学習者たちにとっても教師に何かお願いに行くという状況はさほど想定が難しいことではなかったようである。学習者たちがイメージしやすいように、実際の状況を授業実践者が実演して学習者たちに見せた。また授業実践者のアドリブで、マフラーを巻いたり、手をポケットに入れたまま話し出したりと、態度の面での問題にも気付けるように演技に配慮した(実演後に問題点を指摘させた時に複数の学習者からこの点への指摘があった)。

(3) 自分が手伝えることを勝手に決められてしまったときの対応 (課題2)

次に課題2の問題のある会話例である「自分が手伝えることを勝手に決められてしまったときの対応」について話し合った。ここで学習者から提出された疑問は、相手次第で対応の仕方が変わるのではないかということである(この点に関しては、教材だけから、登場人物たちがどのような人間関係であるのかという説明がなされていない。今後の修正が必要である)。まず、会話の内容を参考に話し合い、登場人物3人(アキラ、ケイ、ユミ)の人物像についての共通認識を作り上げた。その後、学習者たちは、仲間の誰かにこれらの人物を当てはめ、実際の行動や対応を話し合った。「ユキに言われたからと脅す」や「無理矢理連れて行く」等本実践の主旨から逸れるような発言も見られたが、最終的には、「理由を説明してちゃんとお願いする」という意見に収束していった。授業の展開によっては、高校生を対象とした実践においても、自分の経験や生活の場に落とし込んで対応を考えるという学習に発展し得ることを確認できたことが大きな収穫であった。話し合いを経て、学習者各自が自分なりの表現をまとめることができた(なお、何人かに発表してもらったが、意見の紹介に留め評価はしなかった)。いくつかの点を除いて、ここまでの学習活動、学習者の反応等は、宮城(2013)、宮城・文(2014)での実践との大きな差異は見られなかった。

(4) (ロールプレイ) 怒っている相手にゆるしてもらい、またお願いする (課題3)

最後にまとめとして、ロールプレイ演習を行った。二つのグループに分けて、AさんまたはBさんのロールカードを渡し(相手のグループのカードは見ない)、グループ内で話し合った後、ロールプレイ演習に臨むようにした。ロールカードは以下の通り。

[Aさんのロールカード]

A: 今日1時から、Bさんをさそって友だちの誕生日プレゼントを買いに行く約束をしていました。午前中にいとこのお姉さんが訪ねてきて、おしゃべりをしているうちに2時になってしまいました。気が付くと携帯の電池も切れています。すぐに充電してBさんに電話し、今日のことを謝って明日またプレゼントを買いに行こうとお願いしましょう。

[Bさんのロールカード]

B: 今日、Aさんにさそわれて、友だちの誕生日プレゼントを買いに行く約束をしていました。しかし、いくら待ってもAさんが来ません。携帯にかけても出ません。4時からバイトがあったので、1時間待って、家に帰りました。そのあとAさんから電話がかかってきました。私はAさんが約束を破ったことをちよつと怒っています。

学習者たちはロールプレイ演習は体験したことがなかった。その不足を補うため、授業実践者が「皆さんの実生活にストーリーはない」や「相手の反応を見て言い方を変える」のように、より具体的な指示を出した。また状況を把握しやすいように、小道具や位置関係等に配慮した(ここでは携帯電話での通話なので、ペアが電話を持ち互いに距離を取って演習を行った)。学習者たちは、ロールプレイを非常に楽しげに行っていた。個別のロールプレイが一区切りついたところで、全員の前で再度ロールプレイを行わせた(他人のロールプレイと比較して自分のロールプレイを相対化する目的がある)。以下、ロールプレイの一例を挙げる(4組中2番目のペアの会話例)。

[ロールプレイ「怒っている相手にゆるしてもらい、またお願いする」の会話例]

(A、B二人で距離を取り、携帯電話を持つての実演)

A: もしもし。

B: はい。

A: 今日ごめんね。

B: ①おー。

A: なんか、アキさんの誕生日プレゼントを買いに行く約束だったでしょ。

B: うん。

A: で。

B: うん。

A: ② (Aが沈黙。その後頭を掻く仕草、周りに助けを求める様子、しばらくしてから) ……ごめんね。

B: うん。

A: 今日いとこの姉さんが来て(B: うん)、おしゃべりをしていたら2時になって、行けなかった。

B: うん。

A: で、なんか携帯の電池が切れて(Aが再度沈黙。) ……ごめんなさいね。

B: ゆるさない。(聴衆: 笑い)

A: ③で、明日にするか。

B: イヤ。

(「ちゃんと頼め、怒っているぞ」と周りから声が飛ぶ、聴衆: 笑い)

A: 明日にしよー。

B: ヒマじゃない。

A: あー、なら明後日?

B: 病院行く。(聴衆: 笑い)

A: (Aが沈黙、「どうしよう」とつぶやく、しばらくして) ……来週は?

B: ④じゃあ、ヒマなとき教えてあげる。

A: じゃあOK。

以上の会話例の発話を分析すると、およそ以下のようない意図によるものと考えられる。

- ①の発話: Aさんは、Bさんの声色から怒っている様子を察して、以降の発話の勢いが削がれる。
- ②の発話: Aさんは上手く言葉を繋げない。周りに助けを求めるが助けがなく、結局再度謝罪して話を続ける。
- ③の発話: Bさんへの謝罪は終了していない(Bさんが納得していない)が、次の約束をしなければならぬという目的を達成するために出た発話であろう。Aさんはこれ以上何を言えばいいのか見当が付かず、無理矢理話を進めてしまった感がある。当然ながらこの後のBさんの応答がつけんどんな物言いになってしまう。
- ④の発話: BさんもAさんの申し出に対する応答に困ってしまい、自分なりの代案を提案する。ただし、この

提案も必ずしも A さんの意図をくみ取ったものではない。

この後もロールプレイ演習が繰り返された。次に実演する者は先に実演した者の対応の問題点を踏まえて改善が見られた。特に、授業実践者が適宜「板書を参照しなさい、今まで出てきたものを入れてをお願いをするようにしなさい」等の支援を行ったことが効果的に作用したと考えられる。また、学習者がロールプレイ演習に不慣れなため、何度も詰まったり、不調に終わる例が続いて場が停滞してしまう時は、授業実践者らが手本を示すことが呼び水となって、スムーズに演習を続けることができる場合もある。本実践では、ロールプレイを 2 題用意したが、全員が 1 つ目の課題演習を終えたところで授業時間がほぼ尽きてしまった。最後に残った時間で互いのロールカードの内容を確認し合っ、どのような状況であったのか、相手の応答の理由を理解し、自分の対応が適切なものであったのかを確かめ合った(この作業によって、授業の内容が相対化され、自分たちが何を学習したのかについての理解が深められる)。

4.2 事後の検討

授業実践後に授業実践者らによって、以下のような内容が話し合われた。まず、本時の授業の総括として、先に着目すべき点として挙げた、学習者たちが積極的に授業に参加しているかどうか、授業そのものがつまずきなく進行しているかどうかについてであるが、初めての課題への取り組みということも勘案しても、十分評価できる内容であった。次に、個別的な事項が話し合われ、以下に挙げるように本実践における具体的な評価点が挙げられた。

- ロールプレイを授業に組み込むことで学習者たちの積極性は高くなる。
- 本実践の教材・指導法は、高校生レベルでも十分に実践可能である。
- 授業後に学習者に感想を尋ねることによって、授業内容を振り返ると共に、今日の学習がどのような意味を持つのかを考えさせることができた。
- 授業にロールプレイを組み込むことは、学習者達から概ね好評を得た。

さらに、次のように課題も指摘された。

- 授業内容を次に繋げていくために、「今日初めて分かったこと」を個々で文章化する(アウトプット)必要がある。その方法をどう確立するのか。
- 学習者たちの事後の感想についておおむね好評だったが、その効果については、回数を積み重ねた後の学習者たちのコミュニケーション力や相手意識の変化を確

認して検証する必要がある。

以上、残された課題について、授業実践者らと十分に協議の上、今後の実践時には適切な修正を行っていかなくてはならない。

V. おわりに

ある程度の成果は得られたと考えられるが、当然ながら 1 回の実践で、コミュニケーションスキルを大幅に向上させることは難しい。効果そのものの検証は次回以降に回すとして、本実践で得られた成果の意義を以下の 3 点にまとめることができる。

- ①大学生を対象として練り上げられたコミュニケーションスキル教材・指導法が高校の現場でも実践可能なことが確かめられたこと。これは、新しい高大連携の一つの形として認められる。
- ②大学生に比べて高校生段階では、課題に対する理解の一般化の度合いが低く、自分の経験や生活に引きつけて考える傾向が見られる。授業実践者には、このことを意識した対応が求められることが分かった。
- ③その場合、学習者の経験不足を補うために校種・学齢に併せて、内容を改変したり、授業実践者が適切な声かけや例を補って説明する等の適切な支援の必要性が確かめられた。

今後の課題として、高校の現場において何らかの形でコミュニケーションスキル演習が組み込まれる方策を検討する必要があること、時間やスタッフ等の労力を考えると国語科だけでは難しいため、英語科、社会科等との連携を考える必要があること等が挙げられる。課題は多いが、これらの日常のコミュニケーションスキルが順調に熟達していけば、公的な場でのコミュニケーションスキルを身に付けられるばかりではなく、日常生活における困難な状況を解決する「生きる力」を育てることに繋がることが期待される。

謝 辞

本研究の計画・教材開発・実践・事後検討会において、鶴見総合高校の関係者各位(特に授業実践を行った泉・善波両教諭)に多大なるご助力を賜った。また、実戦に参加した学習者諸君にも併せて感謝の意を表したい。

本稿は、科学研究費学術研究基金助成金(平成 25～27 年度 挑戦的萌芽研究「問題例の評価から始める発展的なコミュニケーションスキル指導法の研究」: 課題番号 25590276, 研究代表者: 宮城 信)の研究成果の一部である。

文 献

- 熊谷智子 (1995)「依頼のしかた 一国研岡崎調査のデータから」『日本語学』14-10, pp.22-32, 明治書院
- 牛頭哲宏 (2014)「言葉の使い方を振り返る力」を育てる学習指導 一小学校国語科におけるロールプレイングの活用一」『神戸常盤大学紀要』7, pp.75-85, 神戸常盤大学
- 外林大作 (1981)『教育の現場におけるロールプレイングの手引き』, 誠信書房
- 堀田秀吾 (2014)『なぜ、あの人の頼みは聞いてしまうのか? 一仕事に使える言語学』, ちくま新書
- 宮城信 (2013)「ロールプレイングを応用した国語表現の授業 一うまいアドバイスの仕方を考える」『言語教育実践 イマ×ココ』創刊号, pp.34-39, ココ出版
- 宮城信・文智暎(2014)「大学生におけるコミュニケーションスキル教育の開発研究」『富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究』9, pp.1-11, 富山大学人間発達科学研究実践総合センター
- 森篤嗣・牛頭哲宏 (2010)『小学生のための会話練習ワーク』, ココ出版
- 森篤嗣・豊田誠 (2010)「日本語教育の方法を応用した話し言葉教育の試み 一ロールプレイングを用いた高等学校国語科の授業一」『教育実践学論集』11, pp.97-106, 兵庫教育大学
- 森山卓郎(1990)「断り」の方略 一対人関係調性とコミュニケーション」『言語』19-8, pp.59-66, 大修館書店
- 山内博之 (2000)『ロールプレイングで学ぶ中級から上級への日本語会話』, アルク

注

- i 「基礎的な会話能力」に関しては、ある程度身につけているという前提に立って考察を進める。この能力が十分に育成されていない学習者に対しては、別途個別の対応が必要となる。語彙や表現形式の習得が中心となるので、具体的な状況を設定した会話例集等を示して考えさせることも効果的であろう。
- ii 著者が行った大学生を対象とした「これまで学校で学んできたコミュニケーションスキル教育はどのようなものであったか」を問う小調査では、60%以上の学生が、「何を指しているのか分からない」「ほとんど記憶にない」と回答している。詳しくは、宮城 (2013)の調査結果を参照されたい。
- iii 話し方に関する実践的な指導が十分に行われていな

いことによって、今後の社会生活に支障を来したり、人間不信に陥いるなど深刻な問題の原因となる危惧がある。

- iv 1999年に中央教育審議会が大学と高校を通じた全体教育の必要性を訴える答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」を提出したことが直接的な契機になったと考えられる。
- v 本研究の大学生向け教材は、一年生から三年生相当を対象としている。これまでの実践はおもに、二、三年生を対象とした演習として実施されてきたが、過去に初年次教育「基礎ゼミナール」の一部として実施されたこともある。
- vi 問題が発生した状況を解決するという課題を与えて行うロールプレイング。会話の展開に制約を受けるが実践的なコミュニケーション演習を行うことができる。中級～上級の日本語学習者を対象としたロールプレイングがよく用いられる。内容や位置付け等については、山内 (2000)を参照されたい。
- vii 対象学年としては、大学一年生から三年生くらいを想定している。ただし、「面接を受ける」等は、就職活動が始まる時期に実施した方が、必要感があり効果的であろう。
- viii 2015前期に富山大学人間発達科学部の「日本語運用基礎論」の演習課題として使用した。テキストに関してはほぼ毎年改訂作業を行っている。
- ix 授業協力者たちに課題の意図を分かりやすくするため、高校生用では課題名を「頼みごと」から「お願い」に変更してある。目的とする内容に違いはない。
- x 幅広い基礎分野を扱う普通教育と専門教育に属する科目から選択して履修できる単位制高校。学生自身が自ら選択して、卒業後の進路に関わる様々な実践的な能力を身につけることができることに特徴がある。
- xi 外国籍、二重国籍、日本国籍取得者等諸外国との関わりの深い子ども。
- xii 主授業実践者：泉 一彦総括教諭 (国語科)、授業補助者：善浪沙央里教諭 (英語科) 共に鶴見総合高校教諭。協力校では、国語科、英語科、社会科が共同で外国に繋がる子どもたちへの指導を実施している。
- xiii 観察・記録者の見立てでは、新しい課題の対処への戸惑いが、学習者たちの反応の鈍さに繋がったと考えられる。

(2015年8月31日受付)

(2015年9月25日受理)

資料1 大学生用：「頼みごとをする」の課題プリント (表)

第10回 頼みごとをする

「買い出しに行ってくれない」や「ヒマならちょっと手伝って」など簡単な仕事だからと友人に気軽に頼んだら、そっけなく断られたことがありますか。そんなときは、頼み方にもうひとつ工夫必要なかもしれません。本章では聞き手が引き受けてくれる頼み方について学びましょう。

レッスン1 問題のある頼み方を考える

大学では先生など目上の人に頼みごとをする機会が少なくありません。そんな時は、どのように頼めばよいのでしょうか。あまり軽い態度では困ります。

会話例 1 吉沢さんは田中先生にレポートの内容について質問をしたいと思っています。先生は授業のときに「質問のあるときはいつでも聞きに来ていいですよ」とおっしゃっていたので、さっそく先生のところへ質問に行きました。

吉沢さん：田中先生、こんにちは。吉沢です。
 田中先生：ああ、こんにちは。どうしました。
 吉沢さん：レポートのことです。
 田中先生：……ああ、「日本語学概論」のレポートですか。
 吉沢さん：はい、実はレポートを書こうと思ったんですけど……
 田中先生：ちょっと待ってください、これから会議があるので明日の午後にまた来てくれますか。
 吉沢さん：えっ、明日はバイトがあるので無理です。ちょっとだけいいのをお願いします。
 田中先生：分かりました。では5分だけ。どんなことですか。
 吉沢さん：レポートの資料としてどのような本がお勧めですか。
 田中先生：前回の授業の始めに3冊紹介しましたよ。
 吉沢さん：すみません、遅刻したので聞いていないんです。今週中にレポートを仕上げたいので、今教えてもらえませんか。

Step1 聞いた印象・考えたこと→

.....

.....

.....

Point!

目上の方を尋ねるときは、まず、「〇〇学科の〇〇です」(名乗る) → 「〇〇の件で来ました」(用件を言う) → 「お時間よろしいでしょうか」(相手の都合を確認する) のようにするとよいでしょう。頼みごとを伝えるのはそれからです。事前にメールなどでアポ(予約)を取っておくとなおよいです。

Practice 次のような頼みごとをしたいと思います。引き受けてもらえるようによく頼みましょう！

1. 友人に「テストに遅刻しないように、明日の朝、電話で起こしてほしい」と頼む。
2. 先輩に「午後から一緒に新歓コンパの買い出しにつき合してほしい」と頼む。
3. 先生に「すでに締め切った授業のレポートを受け取ってほしい」と頼む。

レッスン2 頼みごとの内容によって頼み方を選ぶ

話し合おう!

Step1 次の2つの**会話例**を聞いて、気づいたことや考えたことをまとめましょう。

会話例 2

ヒロキくん：雄二さん、もしよかったら、今何時か教えてもらえませんか。
雄二くん：うんと、2時40分くらいかな。
ヒロキくん：ほんと、ありがとうございます。自分もうなんてお礼言っているのか。
雄二くん：え、ボク何もしてないってば。

会話例 3 次の2つの**会話例 3**を聞いて、気づいたことや考えたことをまとめましょう。

麻里さん：ねえ、スーちゃん、大事にしていたあのブランドのバッグ借りてもいい？
鈴香さん：え、いいけど。
麻里さん：やった。それじゃ、明日借りに行くね。
鈴香さん：え……、うん。

Step2 ペアになって、上のまとめを参考にして、次の①～⑤の頼みごとをしましょう。頼み方は内容の軽重に応じて適切な表現を選ぶことを意識すると良いでしょう。また、話を聞いた相手に自分の頼み方の評価をしてもらいましょう。

- ① 「筆箱を忘れたので、何か貸して欲しい」と頼む。
- ② 「県外の友だちが来るので、おいしいレストランを紹介して欲しい」と頼む。
- ③ 「雨が降ってきたので、駅まで一緒に車に乗せて行って欲しい」と頼む。
- ④ 「メンバーが足りないので、草野球に参加して欲しい」と頼む。
- ⑤ 「サークルの役員を引き受けて欲しい」と頼む。

(頼みごとの評価)

プリントを交換して、相手の頼み方について評価しましょう。

頼みごと・・・ ()

- ・「頼みごと」をする言葉遣いや態度は適切でしたか ()
- ・「頼みごと」が本当に困っていると感じましたか ()
- ・「頼みごと」を引き受けることにしましたか ()

○：あてはまる
△：どちらともいえない
×：あてはまらない

資料1 大学生用：「頼みごとをする」の課題プリント (裏)

頼みごと・・・ ()

- ・「頼みごと」をする言葉遣いや態度は適切でしたか ()
- ・「頼みごと」が本当に困っていると感じましたか ()
- ・「頼みごと」を引き受けることにしましたか ()

○：あてはまる
 △：どちらともいえない
 ×：あてはまらない

ちょっと一言 頼みごとをするときに一番大事な言葉

「あなただから頼んだ」とか、「手助けがなければ困る」等と言われると、聞き手は少し照れくさいですが、良いことをしたという充実感が得られるでしょう。頼みごとをするときは、聞き手の助けがどれほど必要か訴えることも大事です。

Point!

どうしても頼みを引き受けて欲しいときは、「急に○○になっちゃって」や「先輩に○○を頼まれちゃって」のような理由を伝えて予想外の事態が発生したことを強調することが大事です。

レッスン3 頼みごとが受け入れられやすくなる表現

頼みごとをするときは、たとえ簡単な手伝いであっても聞き手に軽くはない負担をかけることになります。感謝の気持ちを言葉にして伝えることが重要です。

会話例 4

咲さんに引っ越しの手伝いを頼まれた直樹くんは、雄二くんにも一緒に手伝ってくれるように、頼みにいきます。直樹くんの言い方の違いで、仕事を押しつけられた雄二くんの反応は大きく違ってきます。

直樹くん：あっ、雄二。ちょうどよかった。 (1)

- (A) 明日の夕方、咲んちの引っ越しを手伝いに行くことになったよ。
- (B) 明日のことで頼みがあるんだけど。ちょっと大変な仕事なんだ。

雄二くん：えっ、明日ボクんち来るって言ってなかったけ。

直樹くん： (2)

- (A) だからさー、2人で一緒に引っ越し手伝ったら早いだろう。
- (B) 実はさ、急に咲に頼まれちゃってサ。悪いけど一緒に手伝って欲しくない？

雄二くん：まあ、咲ちゃんに頼まれたら断れないな。仕方ないか。

直樹くん：その場のノリで、そうなっちゃったんだ。ごめんな。

雄二くん：まあ、咲ちゃんに頼まれたら断りにくいけど……。

直樹くん： (3)

- (A) サンキュ。じゃ、明日5時に咲んちに集合で。
- (B)ほんと助かったよ。今度なんかあったら言ってよ、オレ絶対手伝うよ。

Step1 会話例4では、(1)～(3)の箇所直樹くんが(A)ではなく、(B)のように伝えることで、仕事を押しつけられた雄二くんの反応は大きく違って来るはずです。それぞれどのような配慮が見られるのでしょうか。考えをまとめて書きましょう。

(1)「明日のことで頼みがあるんだけど。ちょっと大変な仕事なんだ。」の配慮

(2)「悪いけど一緒に手伝ってくれない？」の配慮

(3)「ほんと助かったよ。今度なんかあったら言ってよ、オレ絶対手伝うよ。」の配慮

Point!

頼みごとの負担が大きいときは、「ほんと面倒なことお願いして、ゴメンね」や「時間大丈夫」のような相手への気遣いを言葉にすることが大事です。が相手の心の負担も減らせるように「もしよかったら、〇〇してくれない」のような頼むときの前置きや「〇〇さんのお陰で、早く終わったよ」のように具体的な内容を入れた感謝の言葉を伝えることが大事です。

レッスン4 ロールプレイに挑戦!

では、次のような状況で、頼みごとを引き受けてくれるようお願いしてみましょう。

(ロールプレイ①)

A: 明日の夜、3年ぶりに幼なじみが遊びに来ることになりました。しかし、明日は17時から22時までバイトのシフトが入っています。バイト仲間のBさんに、バイトのシフトを代わってくれるように頼んでみましょう。

B: バイト仲間のAさんにバイトのシフトを代わってくれないかと頼まれました。明日の夜は姉と買い物に行く予定です。断ろうかと思いましたが、無理をすれば買い物を延期することもできそうです。

(ロールプレイ②)

A: あなたは先生です。研究室の片付けをしたいと思います。力仕事もあるので、学生に手伝いをお願いするつもりです。ちょうどゼミの学生のBさんを見つけたので声を掛けました。明日の午後から始めるつもりです。もし学生の都合が悪いなら、せめて一緒に本棚の移動だけでも頼めればと思います。

B: あなたが家へ帰ろうとすると、A先生に呼び止められ、仕事を頼まれました。ちょっと断りづらい状況です。明日は16時から18時までバイトがありますが、それ以外の時間であれば空いています。

資料2 高校生用：「伝えるお願いを考える」の課題プリント (表)

(ページ1)

伝えるお願いを考える

学校生活の中で、友だちに「ノートを見せて」や「一緒に荷物を運んで」のようなちょっとしたお願いをすることはよくあります。ところが「ちょっと忙しい」、「また今度」とそっけなく断られたことがありませんか。また、先生になにかお願いに行ったら、話しているうちになぜか怒られてしまったことはありませんか。では、どのようにお願いをすれば、うまくいくのでしょうか。

はじめに

① 友だちに何かをお願いをするとき、気をつけることは何ですか。

② 先生になにかをお願いをするとき、気をつけることは何ですか。



話し合おう

練習 手伝ってもらったとき、どんな方法でありがたい気持ちを伝えますか。

| | | | |
|---|---|---|----|
| 年 | 組 | 番 | 氏名 |
|---|---|---|----|

つぎ かいわれい き かんが
○次の会話例を聞いて、考えてみましょう。

【状況】先週ユキさんのクラスでは、日本語の小テストがありました。前の日にカゼをひいていたのと、最近あまり授業に集中できなかったので、全然うまく書けませんでした。できれば再テストを受けたいと思います。そのことを先生にお願いしてください。

【会話例1】

ユキさん：(職員室に入ってくる)失礼します。オカダ先生、こんにちは。

オカダ先生：ああ、こんにちは。ユキさんどうしました。

ユキさん：先生にお願いがあってきました。

オカダ先生：ちょっと待ってください。これから会議があるので明日また来てくれますか。

ユキさん：先週の小テストのことで相談しに来たんだけど……

オカダ先生：あんまりできていなかったね。

ユキさん：先生お願いします。再テストしてください。

オカダ先生：しょうがないな。(時計を見て、)では会議が4時半に終わるので、その時間にまた来てください。

ユキさん：えっ、夕方は友だちと遊びに行く約束をしているので無理です。どうかしてください。

オカダ先生：困ったな、今週は結構忙しいんだよ。

ユキさん：今度は、もっとがんばります。

オカダ先生：なんでもっと早く相談に来ないんだ。

ユキさん：いそがしくて忘れてました。ごめんなさい。



ユキさん

(ユキさんとオカダ先生の役を決めて、[会話例1]を読みましょう)

問題1 [会話例1]を聞いて、思ったことを話し合ひましょう。

Point!

目上の人をお願いをするときは、自分のことより、相手のことを先に考えるようにしましょう。理由もはっきり言うようにしましょう。

資料2 高校生用：「伝わるお願いを考える」の課題プリント (裏)

(ページ3)

○次の会話例を聞いて、^{かんが}考えてみましょう。

【状況】アキラくんは、友だちのユミさんに手伝いをたのまれました。1人だと大^{たいへん}変なので、勝手に^{かつて}ケイクンも手伝いに行くと約^{やくそく}束しましたが、アキラくんはそれをケイクンに言っています。

【会話例2】

アキラくん：あっ、ケイ。ちょうどよかった。明日、ユミの荷物運びを手伝うことになってさ。

ケイクン：えっ、明日一緒に僕の家でゲームするって約^{やくそく}束したじゃん。

アキラくん：だからさー、2人でやればすぐに終わるだろ。手伝いに行こう。

ケイクン：えー聞いてないよ。なんで僕もやることになってるの。

アキラくん：その場のノリで、そうなっちゃったんだ。ユミに頼まれたら、ケイも断れないだろ。

ケイクン：まあ、ユミちゃんに頼まれたら断りにくいけど……。

アキラくん：じゃ、いいよな。明日朝9時にユミン家に集^{あさ}合^じな。

ケイクン：

(アキラくんとケイクンの役を決めて、[会話例2]を読みましょう)

問題2 アキラくんは、ケイクンが納得できないことを2つもしています。それはどんなことですか。(納得=その通りだと思うこと)

こた かた れんしゆう
答え方の練習をしよう

問題3 もしあなたがケイクンだったら、の部分でどのような返事をしますか。

Point!

友だち本人がいないところで、勝手に手伝いの約^{やくそく}束などをしてはいけません。

あいて きも かんが ねが

相手の気持ちを考えてお願いしよう

問題4 [会話例2]を聞いて、もしあなたがアキラくんだったら、次の場面でケイくんにどのようにお願いすればよいと思いますか。



じっせん

実践！ ロールプレイ

問題5 2人で組ぐみになって、AさんとBさんの担当たんとうを決めてください。カードの内容ないようをよく読んで、それぞれの立場たちばで演えんじてみましょう。

ロールプレイ1：今日はごめんね、また明日出かけましょう。

ロールプレイ2：バイトのシフトを代かわってくれませんか。

きょう じゆぎょう

今日の授業のまとめ

ここまでの学がく習しゆを振ふり返かえって、考かんえたことを話はなし合あいましょう。